

4. 宮津市小松家文書調査

上武 恒介

1. 概要

小松家文書は京都府宮津市の小松家に伝来し、京都府立丹後郷土資料館に寄託された文書群である。同館杉田真菜学芸員の相談を受けて本学教員東昇が資料を借用した。2024年9月に京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室に搬入され、現在は目録作成を進めている。本調査は、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「京都府北部のMALUI・高大連携による文化資源を活かした地域づくり」（研究代表：東昇）の一環でおこなわれた。

調査日程 2024年12月11日ほか

調査参加者 東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、釜野祥江、渡邊幸奈（以上博士前期課程）、上武恒介（2回生）、呉皓楠（研究生）

2. 内容

小松家文書は全体で9箱におよぶが、今回搬入されたのは中性紙箱2箱分で合計2,200点ほどと推定される。近世文書は約8点のみ確認されており、明治から昭和初期にかけての家文書が大半を占める。小松家は宮津市小松に居住した家である。近世には岩滝組小松村の庄屋を勤めており、当主は代々小松九郎右衛門を襲名していた。近世文書は横帳が多く、安政6年（1859）「切支丹宗門并家数人数御改帳」などから庄屋としての行政運営の一端をうかがえる。

近代文書は、①与謝郡区長や京都府会議員、与謝郡会議員などの公職に関わる史料、②家政・家業関係、③個人的な金銭貸借・書簡に大別できる。特に明治32年（1899）「証券印紙税則諸達必用書類」からは小松家の家系や経営状況を詳細に知ることができる。幕末・明治期の当主である小松正路は天保2年（1831）7月生、明治9年（1876）に与謝郡第7・8区副区長、同12年（1879）に京都府会議員、同14年（1881）に与謝郡会議員と公職を歴任していた。また、与謝郡蚕糸業組合組長、京都府農会議員、宮津銀行頭取などを務めており、地域社会の産業発展において指導的立場にあった。こうした職務遂行の過程で全国各地を巡回・視察しており、地方名望家として広域なネットワークを構築していたことが推測される。

②家政・家業関係では酒造業・林業・農業に関わる帳簿類が多い。とりわけ酒造業については毎年の仕込帳が蓄積され、明治26年（1893）の全国酒造組合連合会京都大会では京都側の代表者の1人として参加するなど（伏見酒造組合1955『伏見酒造組合誌』）、小松家の家業の中で大きな比重を占めていたことがうかがえる。

今後も文書群の構造と全体像把握のため、目録の作成、ラベル貼り、撮影を進めていく。

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
